

<<すいかの匂い>>

图书基本信息

书名：<<すいかの匂い>>

13位ISBN编号：9784101339160

10位ISBN编号：4101339163

出版时间：新潮文庫

作者：江国香織

版权说明：本站所提供下载的PDF图书仅提供预览和简介，请支持正版图书。

更多资源请访问：<http://www.tushu007.com>

<<すいかの匂い>>

内容概要

夏は、いつだって記憶を刺激する。
夏には、思い出がたくさんある。
視覚、嗅覚、聴覚、味覚、触覚、五感のすべてが夏の思い出を甦らせる。
夏の思い出は、楽しくてうれしくて切なくて淋しくて、すこし残酷だ。
とくに、子供のころの思い出は。

子供の目から見る世界は、なんだかすごく不安定で、ふわふわしていて、不確かだ。
ちょうど、目のまえに水の膜があるかのように、ふにゃふにゃと、歪んで見えた。
あのころ、なんでもないことが、とても特別で大切だった。
大人になると、忘れてしまうような感覚。
きらきらした、不思議なものに惹かれていた。
子供の目から見たら、なんだって不思議なのだ。
日常のなんでもないことも、いつのまにか、不思議な出来事になっている。

そして、とりわけ、少女というものは、そのころのだれよりも感受性が豊かで、繊細な生き物なのだろう。
そして、だれよりも危うく、鮮明に誘惑に心細く、儂い甘さに満ちている。
思わず、抱きしめたくなるような、そんな甘さだ。
だけど、少女はとても残酷で、恐ろしい。
この本には、そうゆう少女の見た不思議な出来事がつまっている。
なんだか、それは、不思議だけれど、とてもリアルだ。

思い返せば、もしかしたら、わたしだってこんな経験をしているのかもしれない。
よく似た思い出。
たとえ、なかったとしても、なんだか、あったような、そんな錯覚を覚える。
それらの思い出は、思い出したくもないものかもしれないし、忘れることを約束したものかもしれない。
もう二度と、思い出さないように、封印した記憶。
秘密にしてしまった記憶。
純粋な残酷さをつれて甦る、その記憶に、すこし、ぞくっとするのだ。
江國さんの淡々とした文章が、そのぞくっとする感覚を、さらに刺激する。

じっとりと汗ばむ、眩しいくらいのリアルのなかに、夏の匂いがした。

<<すいかの匂い>>

版权说明

本站所提供下载的PDF图书仅提供预览和简介，请支持正版图书。

更多资源请访问:<http://www.tushu007.com>